

第4次津山市子ども読書活動推進計画(案)に関するパブリックコメントの実施結果

○意見を募集した期間 平成31年1月10日(木)～平成31年2月7日(木)
 ○提出者数 市内に住所を有する者 12名
 ○提出方法 文書、FAX

番号	該当箇所(ページ)	意見の概要	津山市の考え方
1	(3ページ) 第2章 第3次計画の成果と課題 3 学校等における子どもの読書活動の推進 【課題】2つ目 (13ページ) 第3章 第4次計画推進のための施策 5 第4次津山市子どもの読書活動推進計画で実行する3つの取組 1 家庭・地域・学校が連携した「1日15分間読書」の推進 【数値目標①】不読率の半減に取組む (16ページ) 津山市子どもの読書推進計画アンケート結果(小学5年生対象) 問9「あなたの一日の読書時間は何時間ですか。」	家庭学習がきちんとできていれば、教科書を読んだり、文を読んだりする時間が少なくとも30分はかかると思う。 児童は、家庭学習と読書を分離して、アンケートに回答していると思う。提案として、津山市の全ての小学校で、国語の本の音読(5分位)の宿題を出すようにしてはどうか。そうすれば、読書を全くしないと回答する児童はいなくなると思う。	P13 6～7行目 1 家庭・地域・学校等が連携した「1日15分間読書」の推進 「家庭や地域、保育所(園)・認定こども園・幼稚園、学校、市立図書館、放課後児童クラブ等で連携し、絵本や本、教科書などにふれながら、地域をあげて子どもの読書習慣の定着に努める。」としてアンダーラインのとおり文章を修正します。
2	(13ページ) 第3章 第4次計画推進のための施策 5 第4次津山市子どもの読書活動推進計画で実行する3つの取組 3 読書推進につながる家庭教育の支援	親子のつながりを深めるために乳幼児期からの読書習慣は大切なこと。そのためにも、子どもが義務的になったり、強制的に本を読むのではなく、自然と興味を持ち、楽しく想像力が豊かになるように、乳幼児をもつ保護者に向けて、本の紹介などをしてほしい。	親子のつながりを強めることや乳幼児期からの読書習慣を育むことについて、子どもが自然と興味を持ち、想像力が豊かになるよう、年齢ごとに絵本を紹介する読み聞かせリーフレットを来年度刷新し、配布する計画にしています。
3	(4ページ) 第2章 第3次計画の成果と課題 5 第3次津山市子ども読書活動推進計画で実行した3つの取組(実績) (6ページ) 第3章 第4次計画推進のための施策 1 基本方針Ⅰ 家庭教育への支援及び地域との協働による子どもの読書活動の推進 【推進のための取組】 (1)家庭教育への支援を進める読書活動 (2)地域との協働による読書活動	○1日15分間読書について 読み聞かせボランティアとして、週1回朝10分間、小学1年生に行っている。子ども達の目は輝き、よく話を聞いてくれる。「昔ばなし」が好きで、読書の時間は静か。「おもしろいなあ」「かわいそうだなあ」という感動が伝わってくることもある。「本を読みなさい」ではなく、本を読みたいという心を養うことが必要。 ○読書推進につながる家庭教育支援 本を読んだ後、必ず感想を聞いてあげる。時には保護者と一緒に読み合うのが良い。「3分間読書」でもよい。話を聞き、同じ話題を持つことが大切。 子ども達は核家族社会の中で成長している。電子メディアの急速な発達により、自分の目で語り、読み、感動することを知らない。「昔ばなし」の世界を小学3年生の児童に読んでも喜んで聞いている。 ぜひ、このページの考え方で、地域・学校・家庭の協働で推進していかなければならない。	今後も、地域・学校・家庭の協働を進め、読書活動を積極的に推進していきます。貴重な意見として計画実施の参考にさせていただきます。

第4次津山市子ども読書活動推進計画(案)に関するパブリックコメントの実施結果

○意見を募集した期間 平成31年1月10日(木)～平成31年2月7日(木)
 ○提出者数 市内に住所を有する者 12名
 ○提出方法 文書、FAX

番号	該当箇所(ページ)	意見の概要	津山市の考え方
4	(1ページ) 第1章 計画策定の基本的な考え方 1 計画策定の目的と背景 (3ページ) 第2章 第3次計画の成果と課題 3 学校等における子どもの読書活動の推進 (9～10ページ) 第3章 第4次計画推進のための施策 3 基本方針Ⅲ 保育園(所)・認定こども園・幼稚園、学校等における読書活動の推進	幼児期の「親とのふれあい」や「読み聞かせの意義」について ただ単に語彙力のためではなく、読んでくれる人の膝に座り、ぬくもり、 におい、鼓動を感じながらその世界に入っていく、そんな疑似体験をして いくことが大事であることが注目されていないのが残念。 現場でも五感が未発達である。そのため、イメージ化ができないで、読 み深めができない状況である。 幼児期の親とのふれあいや読み聞かせ、読書活動の重要性をもっとア ピールしないといけない。 学校現場では、学校司書及び図書整理員の配置を堅持していただき、 児童生徒へ興味や魅力的な本をどんどん導入し、紹介していただきたい。	P1 11～14行目 1 計画策定の目的と背景 「子どもは、乳幼児期からの親とのふれあいや読み聞かせなどにより本 に興味や関心を持ち始めると、自ら本にふれようとしています。未来を担う子 どもたちが豊かな読書活動を通して健やかに育つためには、あらゆる場 面において本にふれる環境を整備し、読書習慣の形成を支援していくこと が大切です。」のアンダーラインのとおり文章を修正します。 P6 14～16行目 基本方針Ⅰ 家庭教育への支援及び地域との協働による子どもの読書 活動の推進 「子どもの読書習慣は、乳幼児期からのやさしい言葉かけやふれあい、 絵本の読み聞かせなどから始まります。それは、読んでくれる人の温もり やにおい、鼓動などを感じながら、物語の世界に入り込んでいく体験をす ることにもつながります。」のアンダーラインのとおり文章を修正します。
5	(8～9ページ) 第3章 第4次計画推進のための施策 2 基本方針Ⅱ 市立図書館の機能を活かした子どもの読書活動の推進	第4次津山市子ども読書活動推進計画の基本理念沿って、お互いがそ れぞれ交流を深め、実践できるよう希望する。 そのためにも、必ずカウンターに専門職員の配置を要望する。専門職 員の役割は重要で、図書館を中心に、その取組体制の充実を願う。 講演会、研修会等も系統的に実施していただきたい。	第4次津山市子ども読書活動推進計画の基本理念沿って、関係者がそ れぞれ交流を深めるとともに、講演会や研修会等も系統的に実施できる ようにしていきます。

第4次津山市子ども読書活動推進計画(案)に関するパブリックコメントの実施結果

○意見を募集した期間 平成31年1月10日(木)～平成31年2月7日(木)
 ○提出者数 市内に住所を有する者 12名
 ○提出方法 文書、FAX

番号	該当箇所(ページ)	意見の概要	津山市の考え方
6	(8～9ページ) 第3章 第4次計画推進のための施策 2 基本方針Ⅱ 市立図書館の機能を活かした子どもの読書活動の推進	お話を耳だけで聞くストーリーテリングは、回数を重ねることで聞くことが訓練され、お話を楽しむ力が大きく深くなっていく。テレビやマンガと違って、イメージが与えられたものから、自分で作り出すイメージ、考える力へとつながると思う。 想像する力は生きていくうえで大切であり、人から人へ生の言葉で伝えることで信頼関係が生まれ、「目を見て語る→日本語の響きをたくさん耳で聞く→想像力が生まれる→“楽しい”ことをお話を通して知る→読書(内的な世界を豊かにする)」へと結びつくと思う。 現在、ストーリーテリングは多くの市や町の図書館、保育園、幼稚園、小学校、公民館などで実施されているが、津山市はとても少ない。 去年、津山市立図書館で県主催のストーリーテリングの講演があったが、このような会は1回初めて参加しただけで終わっては効果が出にくいと思う。何回か重ねて研修をしていくことで、実際に一歩を踏み出す人が養成されていくのではないかと思う。 津山市立図書館で主催するとともに、幼稚園や保育園、小学校でも定期的(1学期に1回)に実施してほしい。	P8 28行目 基本方針Ⅱ 市立図書館の機能を活かした子どもの読書活動の推進 (1)市立図書館における子どもの読書活動 「子どもの読書活動を支援する大人や読書ボランティア向けに、選書や読み聞かせ、 <u>ストーリーテリング</u> などのスキルアップを図る講座を開催します。」として、アンダーラインのとおり単語を追加します。 P12 図 社会全体で子どもの読書活動を推進する取組体制 図書館の取組例の「おはなし会」を「ストーリーテリング」に修正します。
7	(7ページ) 第3章 第4次計画推進のための施策 1 基本方針Ⅰ 家庭教育への支援及び地域との協働による子どもの読書活動の推進 【推進のための取組】 (1)家庭教育への支援を進める読書活動	11ページに「スマートフォンなどの利用のへい害などを周知し、使用方法を親子などで話し合うことで生活習慣の見直しを進めます。」と記載されているが、7ページの項目「保護者を対象に読書の重要性などに加え、ゲームやインターネット、スマートフォンなどの電子メディアとのつきあい方をテーマに講座やワークショップ研修等を開催し、家庭教育の役割などについて理解を進めます。」にもふれてよいのではないか。 理由は、①親子で共通認識を持つことが大切、②電子メディアにはまってしまう前に早めに取り組む必要があるため。	P7 7行目 (1)家庭教育への支援を進める読書活動 「保護者や児童生徒を対象に読書の重要性に加え、ゲームやインターネット、スマートフォンなどの…」として、アンダーラインのとおり言葉を追加します。
8	(9～10ページ) 第3章 第4次計画推進のための施策 3 基本方針Ⅲ 保育園(所)・認定こども園・幼稚園、学校等における読書活動の推進	推進のための取組について 各家庭により、本との出会いはまちまちなため、園での触れ合いや読み聞かせは、大切になる。親や職員の思い、集団や園での役割が大きくなる。職員の質の向上につながる多くの研修会を希望する。推薦図書の絵本を各園に配布し、貸出図書として家庭に利用してもらいたい。小学校学年別推薦図書は親にとって指針になる。 現在、多くの方が読み聞かせボランティアとして幅広く活動しており、その熱意に感謝。市内の子どもが一人でも多く本好きになれば力強い。	P10 【推進のための取組】 (1)保育園(所)・認定こども園・幼稚園等における読書活動に記載した通り、職員の質の向上につながる指導者向けの研修会や交流会を企画します。 また、(2)小中学校における読書活動に記載の通り、市立図書館と学校司書(図書整理員)、司書教諭等の連携を進め、読書活動や学習活動が充実するように取組めます。

第4次津山市子ども読書活動推進計画(案)に関するパブリックコメントの実施結果

○意見を募集した期間 平成31年1月10日(木)～平成31年2月7日(木)
 ○提出者数 市内に住所を有する者 12名
 ○提出方法 文書、FAX

番号	該当箇所(ページ)	意見の概要	津山市の考え方
9	(13ページ) 第3章 第4次計画推進のための施策 5 第4次津山市子ども読書活動推進計画で実行する3つの取組	<p>○「1 家庭・地域・学校等が連携した「1日15分間読書」の推進」の連携する中に放課後児童クラブを入れてほしい。</p> <p>○【数値目標②】乳幼児を中心とした未就園児を対象するのみでは、目標として不十分という気がする。</p> <p>○3つの取組について、第3次計画と比較して、思い切っただうしたいのかが伝わってこない。増書については整備にとどまっている。子どもが自主的に本好きになるには、「おもしろい魅力的な新しい本が学校の図書室にある」「図書の本で調べることのおもしろさを知る」ことが大切。受け身ではなく、子どもが気付いて好きになるような対策が必要。</p> <p>○親としての自覚を高めることが大切である。そのことにもぜひふれて欲しい。</p>	<p>P6 第3章 第4次計画推進のための施策 基本方針Ⅰ 家庭教育への支援及び地域との協働による子どもの読書活動の推進 20行目「さらに、保護者が親としての自覚を高めながら、子どもを愛し、慈しむことへもつながります。」を追加します。</p> <p>P13 5～6行目 5 第4次津山市子ども読書活動推進計画で実行する3つの取組「・・・、学校、市立図書館、放課後児童クラブ等で連携し、」のとおり「放課後児童クラブ」を追記します。 また、その他については、貴重な意見として第4次計画実施の参考にさせていただきます。</p>
10	(11ページ) 第3章 第4次計画推進のための施策 4 基本方針Ⅳ 読書活動推進体制の充実 【推進のための取組】 (1)協働による子どもの読書活動 (13ページ) 5 第4次津山市子ども読書活動推進計画で実行する3つの取組 1 家庭・地域・学校等が連携した「1日15分間読書」の推進	<p>本や図書館に興味のある子どもは、ポスターやチラシ、HPなどを見て知り、参加するかもしれないが、興味のない子へは、周知さえ難しいと思う。「本にふれるきっかけづくり」をどう進めていくか。</p> <p>「1日15分間読書」を推進している旨をどのように周知するのか。全市共通の「15分間読書カード」などを作成し、利用するのも1つの方法かもしれない。</p>	<p>「本にふれるきっかけづくり」については、市立図書館、保育園(所)・認定こども園・幼稚園、学校、児童館、公民館、放課後児童クラブ、読書ボランティアなどと連携して全市的に取組を進めます。 また、「15分間読書の推進」については、家庭や地域、学校等で連携し啓発を進めます。さらに、保育園(所)・認定こども園・幼稚園、学校、公民館、市立図書館等でそれぞれ行っている職員研修などでも効果的な取組・PR方法等を研究してまいります。</p>
11	(9ページ) 3 基本方針Ⅲ 保育園(所)・認定こども園・幼稚園、学校等における読書活動の推進 (11ページ) 4 基本方針Ⅳ 読書活動推進体制の充実	<p>図書館においてストーリーテリングが広く紹介されると同時に、学校や幼稚園においてもおはなしを聞く機会がふえることは大切である。(中略)子どもたちがいつもの慣れ親しんでいる場所でおはなしを聞くということは、おはなしを楽しむためにはとてもよいことであると思います。</p> <p>第4次計画では、特にストーリーテリング(お話)の普及に力を注いでいただきたい。(中略) 具体的には、 ①11月の県立図書館主催の第7回図書館職員研修講座、筒井悦子先生のストーリーテリングの研修を受けた方や、新たにストーリーテリングに興味のある方を対象に、筒井先生による初心者・中級者の連続講座の開催 ②津山市立図書館主催「大人のためのおはなし会」の開催により、実際に大人がお話を楽しむ機会を増やすことで、子どもに話してみたいと思う人を増やせるのではないかと思います。</p>	<p>6番回答のとおり「ストーリーテリング」を追加します。</p>

第4次津山市子ども読書活動推進計画(案)に関するパブリックコメントの実施結果

- 意見を募集した期間 平成31年1月10日(木)～平成31年2月7日(木)
- 提出者数 市内に住所を有する者 12名
- 提出方法 文書、FAX

番号	該当箇所(ページ)	意見の概要	津山市の考え方
12	(P17～P18ページ) 読書アンケート(小5)問13「家で読み聞かせをしてもらいましたか」について	<p>読書アンケート(小5)問13「家で読み聞かせをしてもらいましたか」以降の質問に対して、小学生在学までにどれくらい読み聞かせの時間が取れていたかという事です。</p> <p>現在、両親が共働きの家庭が増え、帰宅後も夕食準備や片付け、明日の準備等、日々多忙な時間を過ごしています。そんな中で、読み聞かせをしている人はすごいと思います。親の努力が子どもの成長(心の成長)に大きく差が出るのではと心配です。ゲーム、ネット、テレビなどメディアに流されることが多い中で、活字に向けてもらえるようにするには、どうしたらよいか。</p> <p>もっともっと絵本の良さを根気強く伝え、本に接する時間(場所)を増やす手伝いできればと思います。</p>	<p>一人でも多くのつやまっ子が本と仲良しになるよう、ボランティアなどとの協働を進め、家庭教育力の向上に向けて読書活動を推進していきます。貴重な意見として計画実施の参考にさせていただきます。</p>